

RS ウイルス母子免疫ワクチン定期予防接種のご案内

令和8年4月1日から妊婦の方を対象にRS ウイルス母子免疫ワクチンの定期接種を実施します。予防接種の目的や内容をよく理解した上で、体調のよい時に受けましょう。

1 接種対象者

妊娠28週0日～妊娠36週6日までの妊婦

※過去の妊娠時にRS ウイルス母子免疫ワクチンを接種したことがある方も対象になります

2 接種回数・接種スケジュール

ワクチン名	アプリスボ（ファイザー社）
接種回数	妊娠ごとに1回
接種スケジュール	妊娠28週0日～36週6日までの間に1回接種 ※接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、妊娠38週6日までに出産を予定している場合は医師に相談してください。
接種に注意が必要な方	接種によって妊娠高血圧症候群の発症リスクが上がるという報告もあるため、妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に診断された方、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方
他のワクチンとの同時接種	医師が必要と認めた場合は同時接種ができます。

3 接種場所

上伊那郡内の医療機関
(同封の医療機関一覧のRS ウイルス母子免疫に○のある医療機関)

4 接種費用

公費（無料）

5 持ち物

予防接種予診票（伊那市発行のもの）・母子健康手帳



●里帰り出産を予定している方

上伊那郡外の医療機関でも接種ができます。

【県内】

- ・「相互乗入れ制度」に参加している医療機関で受けることができます。相互乗入れ制度に参加しているかは接種を希望する医療機関にご確認ください。

【県外】

- ・「予防接種実施依頼書」を接種を希望する医療機関へ提出します。**作成しお渡しまでに1～2週間ほどかかりますので、お早めに下記の問い合わせ先へご連絡ください。**

※この通知は、令和8年 月 日以前に妊娠届が出ている方にお送りしています。

裏面をご覧ください

R8.4.1

<お問合せ先> 伊那市役所健康推進課予防係 電話0265-78-4111 内線2332

〈RSウイルス感染症とは〉

- ・RSウイルスの感染によって引き起こされる呼吸器感染症です。1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。
- ・特に生後6か月未満で初感染すると重症化するとされています。一度かかっても免疫が十分にできないため何度もかかります。子供だけでなく大人も感染します。

〈RSウイルス感染症の主な症状〉

- ・2日～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの風邪のような症状が数日続きます。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに治りますが、約3割では、ひどい咳、ゼーゼーと呼吸がしにくくなる、呼吸困難の症状が出るなど重傷化することがあります。このような症状が見られる場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

〈RSウイルス母子免疫ワクチンとは〉

生まれたばかりの赤ちゃんは免疫の機能が未熟で、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンは、妊婦さんが接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて赤ちゃんに移行し、生まれた赤ちゃんが出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

〈ワクチンの効果〉

	生後3ヶ月	生後6ヶ月
RSウイルス感染による医療機関を受診する必要がある下気道感染症（※）の予防	約60%	約50%
RSウイルス感染による重症の下気道感染症の予防	約80%	約70%

※肺炎、気管支炎等の感染症

〈ワクチンの副反応について〉

ワクチンを接種後に、以下のような副反応がみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

10%以上	注射部位の疼痛、頭痛、筋肉痛
10%以下	接種部位の赤み、腫れ

※ワクチンを接種した部位の症状 添付文書より

〈接種を受けた後の注意点〉

- ・ワクチン接種後30分程度は安静にしてください。
- ・接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位は強くこすらないようにしてください。
- ・当日の激しい運動は控えるようにしてください。
- ・体調に異常を感じた場合は、速やかに接種した医療機関へ連絡してください。

